

## 第4回沼南近隣センター整備検討会 会議録

### 日時

令和8年2月28日(土)午後2時から3時40分まで

### 場所

沼南庁舎 大会議室

### 参加者

検討委員 10名

・風早北部地域ふるさと協議会 4名

・ひまわりプラザ利用者団体連絡会 2名

・大島田区, 風早中学校 PTA, 風早北部小学校 PTA, 大津ヶ丘第一小学校 PTA, 各1名

事務局 8名

・市民生活部長他

傍聴者 6名

### 議事概要

#### 1 開会

#### 2 市(事務局)説明

当日資料に基づき説明

#### 3 協議

風早北部地域ふるさと協議会長を座長として協議を進行

(座長)

本日は, 市から示された施設の想定規模・機能イメージについて, 主にご意見をいただきたい。検討会として, 市の提案に対し, 合意できるか否かがポイントとなる。

##### ①市の説明を受けて感じたこと

・アンケート結果で示された図書館, ホール, 音楽室, 会議・多目的室といったニーズが多い機能が計画の中にしっかり組み込まれており, イメージができあがっていると思った。

・利用する側から見ても便利そうだと感じた。

・今回示された案であれば, もととのひまわりプラザの場所でも建て替えが可能なのではないかと感じた。

・これまでの議論内容を柏市が整理して示したことで, 全体のイメージがすっきり持てるようになった。

- ・PTA 広報誌を通じて中学校地区の皆さんに検討会の状況を共有し、地域の意見を広く拾い上げてこの場で共有できるようにしたいと思っている。

- ・第1回の検討会の時から、ホールが整備されるか否かが重要なポイントと考えていたため、ホールを整備し、さらに可動式の椅子のイメージが示されたことは良いと思った。

- ・行政が大島田区に対してどのような考え方を持っているのか、明確に示してほしい。  
(市)

- ・歴史的な経緯も踏まえつつ、市民活動支援課として、区等への活動支援をしている立場からどういった対応ができるか、これから話し合っていきたい。

- ・柏の葉近隣センターと沼南近隣センターの違いや共通点は何か。  
(市)

- ・沼南近隣センターと柏の葉近隣センターは、どちらも「地域のいろいろな方が使える交流の場」、「みんなの居場所」というイメージコンセプトを共通して持っている。

- ・これまでの利用実態や、アンケートでも音楽・発表会・講演会のニーズがあることが示されていたため、多機能型ホールの整備を予定している。そこが柏の葉近隣センターとの大きな違いになる。

- ・従来の公民館や近隣センターとは異なる発想が取り入れられていると感じた。  
(市)

- ・地域の方々の公民館への思いは、これまで検討会の中でもお話を伺い十分承知している。新しい施設は、これまでのひまわりプラザの利用実態や使われ方にも配慮しながら検討していきたい。

- ・音楽団体は音を出すため部屋の分割利用ができず、従来6部屋だったものが4部屋になると、特に土日は利用希望が多く、軽スポーツの利用も増えているため、音楽団体が使うのは難しくなると感じている。

- ・ホールについては、ステージがあるだけでなく、ステージ裏に楽器を置いたり、次の出演者が待機したりできる裏方スペースが必要になる。しかし、今回の多機能型ホールにはそうした機能がないため、音楽ホールとしての利用は難しいと感じている。旧ひまわりプラザの大ホールも音楽ホールとして十分な設備を備える施設ではなかったが、音楽ホールとして使用できるような施設を検討してほしい。

- ・調理実習や子ども食堂で使える調理室を整備してほしい。  
(市)

- ・貸室の多目的室にガス台やコンロなどの調理設備を置いて、料理ができる空間を整備したいと考えている。

- ・アンケートの結果は、基本的に隈なく拾ってもらえたと感じている。

・ホールの面積が今までの3分の1となるが、数字だけでは空間をイメージするのが難しいため、閉鎖されている旧ひまわりプラザの中に実際に入る等して空間を感じながら考えられるとイメージがしやすいと思った。

・貸室の面積を見ると、だいぶ小さくなる印象は受けた。  
・旧近隣センターは人の出入りが少なく寂しさを感じていた。人の出入りが活発になるコミュニティスペースは必要だと感じているので、参考イメージとして資料で示されたフリースペースは魅力的だと思った。

・図書館について、個人的には、100%デジタルで本のない館にしてほしいという思いがある。

・多機能ホールについて、この資料の説明(写真)だと発表会やコンサートもできるように見えるが、このホールには舞台裏がなく、入口も1か所しかない。これで音楽発表会・演奏会ができると言うのはおかしいのではないか。

(市)

・提示した写真は可動式観客席のイメージを共有するためお示ししたのもの。この写真のとおりホール整備をイメージしているものではない。旧ひまわりプラザではこれまで音楽コンサートや練習が多く行われてきたことも考慮しながら、バックステージや入口の在り方も含めて、予算の制約もある中、こういった施設とするべきか皆さんの意見を踏まえつつ検討していきたいと考えている。

## ②意見要望

・ひまわりプラザの最大利用人数が250人だったため、新しいホールの定員も250人程度となっているが、従来の528人規模の半分以下になると、この地域の避難所として今まで通り使用するのには厳しいのではないか。

(市)

・市では首都直下型地震を想定した最大避難者数を算出しており、小中学校や高等学校の体育館に加えて教室も避難所として活用していたため、ホールの面積が小さくなくても地域の避難者を受け入れる人数的には影響はない。

・避難所として考えると、高齢者もいるし雑魚寝も想定されるので、フローリングだけでは心もとなく、やはり和室が必要ではないかと思う。

(市)

・和室は現状の稼働率を踏まえて整備案には入れていないが、多目的室に畳マットや敷きマットを準備し、避難所として、また、体操等の靴を脱いでの利用に対応できるように考えている。

・建物は何階建てになるのか。

(市)

・現状では二階建てを想定している。

・資料の稼働率は日当たりで見ているのか、それとも時間当たりで算出しているのか。

・稼働率を見ると、整備後の部屋数では日によって借りられない日も結構出てくると思うので、公共施設であればもう少し余裕を持った数字で計画してもよいのではないかと思った。

(市)

・沼南近隣センターは1日4時間×3コマの利用形態で、3コマのうち1コマ使われた場合は3分の1の33%となり、利用コマ数に対して算出をしている。

・基本的には提示した稼働率に収まってはいるが、曜日や時間帯でばらつきがあるため、場合によっては利用時間の調整をお願いすることもあると思うが、全体としては今までの活動を継続して行える状況であり、今後の人口減少を考えると適正な規模だと考えている。

・20年30年先のことはわからないが、5年後に新しい近隣センターができたときには、部屋数が少ないため、土日は使いづらくなると思う。

・フレキシブルに使えるようにすればするほど中途半端になってしまうこともあるので、団体や個人の数とそれぞれの用途に見合った部屋数のバランスが重要だと思う。

・図書館については、本に直接触れることが大切だと考えている。

・稼働率を合計すると約350%になるが、これまでは最大8部屋で賄っていた人数を4部屋で対応するとすると、かなり使い勝手が悪い環境となり稼働率が下がるのではないか。

(市)

・再整備後の想定規模イメージは、令和6年度の旧センターの全ての利用実績を一つ一つ新しい施設に当てはめ、これまで集会室や学習室を使っていた一定規模以上の団体は多機能型ホールに振り分けるなど、利用人数に応じて再整備後の各部屋に割り当てていくと、概ね皆さんが利用できる状況であることがシミュレーションができた。

・会議のように音を出さない利用の方が、音出し可能な部屋に流れてしまうと、音楽で使う人たちがすごく使いづらい施設になってしまうのではないかと感じた。

(市)

・多機能になれば使い方が広がり、多機能型ホールは、これまでなかったスポーツ利用により、さらに稼働が増えることも考えられる。その中でどう最適化していくかは、1コマ当たりの利用時間も含め、運用方法等について今後のワークシはヨップで皆さんのご意見も伺いながらまとめていきたいと思っている。

・これまでホールの稼働率が29%と低かった中で、そこにコストをかけることは、音楽団体の活動を知らない方々からすると容認されづらいのではないかと思う。ただ、音楽団体の活動でミュージックセラピーなどを実施し、それが高齢者の健康増進につながり、結果的に医療費の削減や市全体の幸福度向上、財政への好影響が見込めるのであれば、コストをかけたいと思ってもらえるようになるのではないか。

(市)

・柏市全体の文化振興という観点から見ると、ホールの在り方については、現在、

市民文化会館の再整備が検討されており、その中で、本格的な音楽環境の整ったホールの整備検討が進められていくことになる。

- ・活発に人の出入りがある施設を望む。
- ・今後はさらに多様な考え方や趣味嗜好を持つ人が増えていくため、今回の部屋割りではその受け皿として不十分で、活動の場がなくなってしまうのではないかと不安を感じた。施設を3階建てにして、上の階にたこ部屋のような小さな部屋を多く設けることで、より多くの人が利用できるようになると思う。

(市)

- ・他の近隣センターの多くが2階建てで、柏の葉近隣センターも含め、2階建てをベースに検討している。多様なニーズや将来の変化を見据えると、小部屋が多くあると良いという意見も一つの考え方だと思うが、新しい近隣センターでは交流が生まれるみんなの居場所を目指すため、フリースペースで皆さんが思い思いにいろいろな過ごし方をしてほしいと考えている。

- ・施設を出入りする人が、いずれ利用者になることもあるので、カフェなどを設けて、人が出入りしやすいような1階部分のイメージをつくるのが非常に大事だと思う。
- ・人が来やすい環境としては、駐車場やバスの利便性が重要であるため、建物の1階を駐車場にするという案もあったが、それは3階建てと捉えられ、そのような発想は難しいのか。そもそも、3階建ての建物にするという検討の余地はないのか。

(市)

- ・コストと実際の用途の兼ね合いから、現状、2階建てを想定しているが、今後精査を行う中で方向性を定めていく。
- ・「活発な人の出入り」、「交流が生まれる場所」というのは、アンケートや検討会でのご意見を踏まえても重要な要素だと考える。そのため、フリースペースを広くとって、可能であればカフェの設置も検討しながら、自由に出入りできて、思い思いに過ごせる、自然と交流が生まれる地域の交流拠点を目指したい。

- ・バスロータリーがあるため、子どもだけでも安全に出入りできるよう、横断歩道の設置場所についても検討が必要である。

- ・入口のデザインについては、中の様子が分かり、入りやすい雰囲気の良いデザインが良いと思う。

- ・学習スペースには元塾講師や教員のような人がいて勉強を教えてくれる環境があるとありがたく、さらに子ども食堂が併設されていて放課後に安く食事ができ、友達と一緒に勉強しながら指導も受けられるような場になれば、この地域の子どもの学力向上にもつながるのではないかと期待している。

- ・ふるさと協議会が発表している地域の人口を見ると、柏の葉地域よりも風早北部地域の方が多いが、柏の葉近隣センターの面積は約3,000㎡で、新しい沼南近隣センターは2,000㎡とされているのは、どのように計算されたのか。

(市)

- ・市内には23か所の近隣センターがあるが、平均は1,000㎡程度であり、沼南近隣センターはそれより大きい規模で想定している。

- 地域人口については、柏の葉エリアは、今後、周辺エリアの編入を想定しており、また今後も人口増が見込まれる。編入予定エリアを合わせると、風早北部地域と柏の葉地域の人口規模は同程度。
- 近隣センター規模について、柏の葉は敷地面積約 3,000 m<sup>2</sup>。延床面積約 2,000 m<sup>2</sup>を想定。沼南近隣センターの想定規模約 2,000 m<sup>2</sup>も延床想定。

(座長)

想定規模・機能について、今回市から示された方向で進めていくことで良いか。  
(各委員に確認後、) 今後は、今回の市の提案を基に、貸室・図書館以外の機能や運用面、建屋等、具体的な内容をさらに詰めていくこととなる。

#### 4 その他

(市) 次回検討会を3月28日(土)に開催予定。

#### 5 閉会